

今号は教育・研修・地域連携担当病院長補佐に寄稿いただきました。

時代が過ぎても変わらないもの

中学生くらいの頃から「山に登る」ことがなんとなく好きで、時間があれば時々山に登っていました。そのせいか、趣味を尋ねられた時には、特段これといった趣味もないので「山登り」と答えていました。

大学生の頃、授業が終われば、自転車で蔵本キャンパスから西部公園を経て、眉山の山頂までよく登っておりました。俗世間を離れ山の中へ入ると心が癒されました。そして休日には、サイクリングで遠出をし、いろんな山に登るようになり、次第に自転車で標高の高い山に登ることに挑戦するようになりました。学生の頃には剣山、卒業後高知の病院に勤めた時には天狗高原（途中にとっても急な坂があります）から石鎚山を自転車で登りました。今でもその時にみた景色の多くが鮮明に思い出されます。自転車での山登りはきついのですが、自分のペースで少しずつ登ることができ、見下ろす景色は登るにつれ変わります。進めばそれまで見えなかった風景が見えるようになり、そして諦めなければ上までいけるという、なにか自分にとっての人生の教訓のようなのだと実感していました。そして29歳の時、診療も忙しくあまり休みも取れないし、体力的にもこれから衰えると思い、人生の記念になるようなことをしようと、富士山に自転車で登ることを考えつきました。無謀でしたが、少しトレーニングをして、軽い自転車を購入し、8月の夏休みを利用して、自転車での富士山の登山に挑戦しました。行きは寝台特急を利用し、早朝に河口湖に到着、そこで自転車を組み立てて、スバルラインを登り、五合目からは自転車を担いで登りました。山頂に着き、知り合いになった登山者に、山頂で自転車を持ち上げている証拠写真を撮ってもらい、目的を終了しました。これ以降は、大学病院での勤務となったため、診療や研究で忙しく、家族旅行で山登りをする程度で、惰性で生きています。研究などで物事に挑戦するときに、一歩踏み出すと見える世界が変わることを経験しますが、このような時には自転車でえっちらおっ



写真：富士山登山の時の自転車

ちらと山に登っている時の思い出が重なり、頑張ることができます。

この度、病院長補佐(教育・研修・地域連携担当)を拝命しました。地域医療の仕組みや新専門医制度など医療や医師育成の情勢は常に変化しており、今後も大きな変革を求められることがあると思いますが、与えられた環境で頑張り、自転車での山登りと同じように、諦めずポジティブに行動し、新院長のリーダーシップのもと職務と果たすべく、一歩ずつ前に踏み出したいと思います。

教育・研修・地域連携担当病院長補佐 安倍 正博

このコーナーでは、病院でとりくんでいる様々な事業を紹介します。

病院の経営について

高齢化が急速に進み、社会保障費は年々増加しています。一方、財源は確保できておらず、次の世代に負担を先送りし続けています。この先送り状況を打開するため、また医療保険制度を維持していくための医療費削減は避けて通れない状況にあります。

徳島大学病院における運営費交付金も、過去10年間で46億円から31億円に15億円減少しました。徳島大学病院の自力収入である病院収益は、過去10年間で87億円増加しました。しかし、人件費を含んだ経費も87億円増加し、収入の増加はほぼ経費に消えてしまいました。

徳島大学病院を受診する患者様の多くは、徳島県内のみならず広い地域の他の病院から紹介された方です。よって、難病や治療の困難な患者様が多くなります。その為、高度な医療機器が必要となり、必然的に多額の設備投資が必要となります。

その投資を行うためには自立した財政基盤が必要不可欠です。財政基盤を確立するには、自分で稼ぐ力を高めるしかありません。一人一人が収益に関心を持ち、医療材料・薬品等は原価意識をもって使用し、デスクワークはスクラップアンドビルドによる見直しをはかり、効率的な業務の推進を考えることが重要であると考えています。

【平成20年度】

収益	自力収入:病院収益 154億円	運営費交付金 46億円	
費用	診療経費:材料費・委託費等 105億円	人件費78億円	その他

【平成30年度】

収益	自力収入:病院収益 241億円	運営費交付金 31億円	
費用	診療経費:材料費・委託費等 163億円	人件費 108億円	その他

図. 10年前と現在の収益・費用の比較

経営担当病院長補佐 篠原 義明

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係 (bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp) までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



臨床試験管理センター

坂口 暁 講師



平成31年4月より臨床試験管理センターに就任しました坂口暁と申します。もともと呼吸器・膠原病内科として就労していましたが、医薬品医療機器総合機構（PMDA）へ出向する機会をいただき、2年間新薬の審査、治験の相談業務を行ってまいりました。もともとは臨床一本の医師でしたが、がん診療の治験・臨床研究について興味をもったことから、この道に入ることを希望しました。今では、センターで毎日臨床研究法と医学系研究に関する倫理指針にどっぷり浸かる毎日ですが、意外と性に合っているようで、やりがいのある毎日をごさせていただいております。

この場をお借りして、ひとこと。臨床試験管理センターでは、主に倫理審査委員会に提出される資料のチェックや、臨床研究の相談業務を受けています。何かご不明な点や、研究計画で相談がある場合は、是非とも臨床試験管理センターまでご相談ください。

むし歯科

坂本 裕大 修練歯科医



こんにちは。今年度からむし歯科で修練歯科研修医として働いています坂本裕大と申します。昨年度は徳島大学病院で研修医生活を送らせていただきました。

自分の将来を考えたときに、もう少し大学での専門的な診療を学びたく当院での修練歯科医を選択しました。現在所属しているむし歯科では名前の通りむし歯の治療、歯の神経の治療(根管治療)、歯周病の治療をメインに日々診療しています。普段は予約診療と救急診療を交互に行っています。救急診療では他院からの紹介患者や当院の入院患者処置も多く、他分野の知識が必要になることが多々あります。

休日は歯学部の子供たちや先生方たちと野球をしたりしています。

今年度の目標は、まずは基本的な手技を高めていくことを意識して取り組みたいと思っています。若輩の身であり、日々学びの毎日ではありますが、少しでも皆様の診療の一助となれるように精一杯努めさせていただきます。何卒宜しくお願いいたします。

眼科

南佳 佑 医員

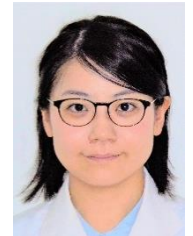


このたび徳島大学病院眼科に入局しました南佳佑と申します。石川県出身で徳島大学卒業後、去年まで2年間徳島県鳴門病院で初期臨床研修をさせていただき、その後の進路として出身大学である当院の眼科を選択しました。眼科を選んだ理由は色々ありますが、学生実習で手術の顕微鏡を覗いた時に感動したからというのが一番大きい理由かもしれません。実際4月から外来や手術が始まり、他科と比べ診察や検査が特殊であるため、まだまだ慣れないことばかりで日々奮闘しております。

仕事以外の話をすると、最近テニスを始めました。バドミントンは昔していたのですがテニスは全くの初めてで、実際にやってみると全く違うスポーツであり、そこでも日々奮闘することとなりました。上級者から教えてもらい、試行錯誤して実践してみるという点は仕事もテニスも似ているなど思われます。まだまだ未熟者ですが令和初眼科入局者として頑張ります。

卒後臨床研修センター

新開 瑞希 研修医



本年度4月より歯科研修医としてお世話になっております、新開瑞希と申します。

徳島県出身で、徳島大学歯学部を卒業し、そのまま大学病院で研修させていただいております。

現在私は、虫歯や歯周病の治療を専門とする保存科と、被せものや入れ歯を専門とする補綴科の、2つの科で研修しています。尊敬する指導医の先生の下、救急にくる患者さんへの対応や、自分の患者さんの治療などを行っています。毎日のように自分の実力不足を痛感し、落ち込むこともありますが、研修医仲間と一緒に、励まし合いながら頑張っています。

私自身、食べることが大好きで、それを支える仕事につけたことを嬉しく思います。

今後の目標は、患者さん一人一人に誠実に向き合い、この人にはどういう治療が必要なのか、しっかり考えて治療にあたることが出来る歯科医師になることです。まだまだ未熟な私ではありますが、精一杯努力してまいりますので、何卒よろしく願いいたします。

診療放射線技術部門

松田 憲武 診療放射線技師



平成31年4月より入職した診療放射線技師の松田憲武です。現在は一般撮影部門に配属となり、一般撮影や病棟撮影、手術場での業務、透視業務などをさせていただいております。教科書で学んだ撮影法をそのまま当てはめるだけでなく、目的部位の描出ができるように患者さん1人1人の状態に合わせて最適な撮影を行うことに難しさややりがいを感じる毎日です。

また、仕事だけではなく、映画や先輩方とロードバイクを楽しむなど、休日にも有意義な時間を過ごしています。

知識や経験もまだまだ浅く、先輩方にご指導いただきながら日々過ごしております。少しでも早く一人前の診療放射線技師となれるよう日々精進して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

手術部

中野 加菜 看護師



4月から手術部で勤務しております、中野加菜と申します。不安と期待でスタートし、手術室の業務がどのようなものなのか未知の世界でしたが、一つ一つ先輩方から丁寧なご指導を受け、数ヶ月が経ち、できることが徐々に増えてきました。病態生理を理解した上で根拠を踏まえた手術看護を行う大切さを学んでいます。また、患者さんの心身の負担を軽減するためにも、手術がスムーズに進むように、先のことを考えて行動できるように日々努力しています。

休日は友人とカフェなどへ行き、おいしいものを食べておしゃべりしたり、趣味であるバスケットボールをしたりして汗を流し、心も身体もリフレッシュしています。

私の今後の目標は、患者さんの背景を把握し、個々に応じた声掛けを行い手術に対する不安を軽減できる、そして手術を安全・円滑に進められるよう広い視野を持ち行動できる手術室看護師になることです。